



UNIV. OF  
TSUKUBA FC

SHUKYU  
CONNECTED

#03

後編



ミスターコンサドール

24期

曾田  
雄志





**筑**波大学蹴球部は高等師範学校を起源とし、1896年から数えて129年の伝統を誇ります。「ゴールポストを全国に」を合言葉に多くのOBが教員となりサッカーを普及してきた歴史があります。蹴球部OBには田嶋幸三さん、井原正巳さん、最近では三笥薫選手などがいらっしゃり日本サッカー界を引っ張ってきました。サッカー業界以外にも他業界で活躍しているOBが多々いらっしゃいます。

SHUKYU CONECTEDはそんな様々なOBにインタビューを行い記事にすることで、現役部員がOBを、OBが他のOBを知る機会を増やし交流を促進させることが目的です。この記事を作成するにあたり多くのOBの活躍を知りました。それを少しでも知っていただけると幸いです。

第3回は北海道コンサドーレ札幌で9年間活躍され、引退後もアスリート支援をはじめとした様々な事業でご活躍されている曾田雄志さんです。曾田さんの唯一無二のキャリアや熱い思いを2回に分けてお届けします。

後編はプロサッカー選手引退後のキャリアや蹴球部に対する思いにフォーカスしていきます。

## 引退後について教えてください

サッカー選手を引退し、コーチや監督などになるつもりもなく、ましてやサッカー界にとどまるつもりは全くないところからスタートしました。サッカーをやったからもういいやと思っても、結局趣味を仕事にするのは難しいと感じ、一周回ってスポーツに自分が関わるとしたら、マネジメントなのは高くなりそうです。Jリーグのみならず、プロアスリート界の中で最も偏差値が高い部類だと自覚していたので、小野伸二さんや中村俊輔さんには監督コーチとしてはかなわない可能性があるけど、マネジメントならば勝てるのではないかと思いました。そこで1から勉強し直そうとし、当時行きたいと思っていた海外で学べるところを探しました。調べた結果、マンチェスター大学は当時世界大学ランキングが30位くらいで、MBAがマンチェスターユニテッドと提携しており、そこに1年行ってから、ハーバード大学のケネディスクールという公共政策大学院に1年行けば、そんな元アスリートはいないので、実現できればマンチェスターユニテッドのGMに日本人が初めて就任したいな可能性が出てくると思って、サッカー選手を引退すると決めた頃から勉強し始めました。2年半かなり頑張って勉強し、マンチェスター大学のMBAコースに実際に入れることになり、さらにはこの取り組みが素晴らしいからお金出すといってパトロンの方もついてくれました。家族も移住する予定で、学費、生活費、子どもの教育費、養育費を負担してくれるという状態でした。しかし、東日本大震災が発生し、それがすごく気になってしまいました。単なる震災ではなく、原発事故も絡み、過去の日本で最も大きいアクシデントの一つではないかと思え、結局謝って留学をすべてキャンセルし、ボランティア団体を作り、震災の支援をし始めました。海外に出ていけば世界的なエリートになっていた可能性もあり、ここからまた人生が急に変まりました。サポーターとファンがいるのでたくさんのアスリートを巻き込み、たくさんの方の力を借りて東北の応援をしました。悲しい現場を見過ぎたし、悲しい話も聞き過ぎて、自分の無力さを感じました。

## 引退後について教えてください

困っている人を助けるということがこれほど大変だということを実感して、ピュアな気持ちで活動していましたが、活動しすぎて仕事もほとんど辞めていました。その結果自分が貯金ゼロになり、人を助けようとしていたのに自分が困ってしまう状況になりました。そのときには2013年になっており、子どもも小学生になっていたのでこのままだったら終わりかなと感じ、感覚で自分がよいと思ったことをやってもそんなに甘くないことを痛感していました。

そんなときに知らない電話番号から電話があり、それがある大企業の社長室からのものでした。「曾田さんは素晴らしいことをしているから何か応援させてください。」と言われ、詐欺かと思いましたが、本当に東京でお会いしました。お金はもちろんいただいていないですが、例えば文科省の偉い人、アスリート界の重鎮や大企業の幹部などいろいろな人を紹介してもらいました。そこで急激にネットワークが増え、頼まれごとが増えて怒濤の日々が毎日毎日続きました。そのあたりからビジネスとは何かを改めて考え始め、社会の課題を解決することと、それを事業化することにはどういう手法があつて、どういうやり方があるかを考え始めました。

ただ、人脈やネットワークは大事ですが、自分の力がなければ使うことが出来ません。自分の力がないからネットワークを使い切れないとある程度自分で感じたので、この頃はただ泥臭く活動していました。

そのあたりで初めて自分で一般社団法人を設立し、アスリートのキャリア支援と公教育の支援というところで、2013年から何百回もアスリートを学校の体育の授業や部活に派遣するという事業を始めました。

そういったアクションをとにかくお金がないながらもやりまくっていたら、教育とかスポーツというキーワードで僕が存在が浮かぶ人が増え、まずは北海道内で仕事を頼まれることが増えました。サッカーに関しても曾田スクールといって10年ほどやったりもしました。

## 引退後について教えてください

サッカー選手という武器を失ってしまったので、とにかくいろいろなことにチャレンジをして、もう一回修行して自分の武器を作り直さないといけないと思っていました。そのため、依頼はすべて断らないで何でもやりました。その中で自分が成長していけば良いと思っていて、その流れで北海道教育大学からもスポーツビジネスの研究室を持たせてもらい、6年間やりましたし、なでしこリーグ当時3部のチームがあつて、経営破綻しそうなのを助けてほしいという依頼からそのチームの代表を務めたり、大きい企業からプロジェクトの依頼など、頼まれることが増えて、出来ることも増えました。しかし、まだまだ安定感もなく、つぎはぎみたいにかくさんの仕事をやっていていましたが、ずっと自分なりに人とか仕事に向き合つて取り組みました。そして、出来ることが本当に増えて、近年で言う時代の変わり目もあり、大企業さんの仕事も増えました。

現在は札幌から移住して十勝の浦幌町という人口約4000人の街に住んでいて、まちづくりと町長の特別補佐みたいな自治体側の役職も貰っています。札幌ではアスリートの派遣やイベント、頼まれごとをやるという感じで、東京では大企業の人材育成や幹部育成、新規事業プロジェクトの立ち上げなどをやっています。

こんな未来になるとは全く思っていませんでしたし、今後もしろいろ変化があると思います。日本人は一つのことをやり遂げる美学みたいなものをもっていて、いろんなことをやった方が良いとは言いつつ、例えばスポーツ一つとっても様々な種目をやっているのと、「何か身になったのか」となると思います。いろいろなことをやることは中途半端になるイメージがあり、ポジティブな目線があまりなくて、「最終的に何をやりたいんですか？」とか、「何になりたいんですか？」とずっと言われ続けました。なので自分からアピールしないし、露出しないようにしていました。



## 引退後について教えてください

しかし、幅広く浅いと「何になりたいのか」と言われますが、だんだん幅広くて深くなり立体のようになっていくことで、スーパージェネラリストは最強であると気づきました。僕は一応ジャンルとしては教育人材育成、人材開発みたいなことがベースですが、ほとんどの事業に関わる事が出来るようなスキルを得ました。事業を正しい状態にするとか、新しい事業を立ち上げる、人のキャリアを支援するとか何でも良いのですが、課題がわかって未来像がわかると、その間をどうやったら埋める事が出来るのか、解決することが出来るか、というスキルを身につける事が出来ました。だから企画から人をアレンジすること、資料作り、運営から何から全部自分で出来るし、今はおかげさまで人に恵まれているので、各ジャンルのトップランナーの人たちと大体つながるし、大企業の幹部の方にお世話になっていることも多いので、何かあったときに企業との共同というのでも推進しやすい環境にあります。たまたまかも知れないけど、いろいろやったからこそ得られることもあるんだというのはすごく実感しています。今の日本はいろいろなことが起きていて何が起るか分からない状況下で、「このままで日本は大丈夫なのか。」とか「真実は何だろう。」とかにクエスチョンを持つようになっていきます。だから本当に多様な価値観が大事だし、一次情報といって現場に行って直接人の話とかを聞いたりするという感覚が大事だと思っています。自分はそのようなことをずっとやってきたので、時代と合ってきました。経済性の向上と世にとってよいことの両方を求められる時代で、自分は社会課題解決の事業家なので、これからチャンスは増えていくと思っています。

僕にサラリーマン的な思考はほぼないんで、やっぱり自分でチャレンジすべきだと思うし、その分責任もとらないといけないけど、チャレンジしている分楽しいことに出会える可能性が広がっていると感じています。

自分でもキャリアは珍しいと思っていて、元アスリートでこういう事業をやっている人はほとんどいないと思っています。

## 引退後について教えてください

人の人生や人の仕事は計画的にちゃんとやるけれど、自分の人生は放置して、野心も目標もなく、何になりたいかと言われると困ります。ただ、昨日よりは豊かになりたいし、先週よりもパワーアップしていたいというのは欲張りなので、よくわからないけど強くなったり豊かになったら出来ることも増えるだろうし新しい可能性に出会えるので、あまり未来のことを考えすぎなくて良いと思っています。本当に自由で良いと思っています、その分大変なこともあるけれど、こういうキャリアが元アスリートでもあるというのだけでも違うと思っています。



塾長をしている幹部企業人研修の曾田さん 北海道十勝郡浦幌町

## 現在の蹴球部との関わりを教えてください



OB会の副理事長を去年からやっていて、たいした活動はしていませんがお手伝いをしています。早慶と比べると、筑波の人は控えめな人が多いような印象があります。だけど、筑波はやっぱ伝統もあるし、本当にサッカーが好きだという方が多いです。田嶋さんも日本サッカー協会の会長をされていたし、三笥君のようにトッププレイヤーもいるので、もう少し盛り上がるようにお手伝いをしたいと考えています。昨年田嶋さんのパーティーをプロデュースさせてもらいましたが、そのときに多世代が交わるような機会はずごく大事だと思うので、中筑や、こういったインタビューも含めて良い形を作るお手伝いをしたいです。元プロであった人がこういったイベントに関わるのが少ないけど、自分は周りの選手に出てくださいと声もかけることが出来るので良い機会を楽しみながら作りたいです。



## 最後に、現役部員にメッセージをお願いします



大学は社会に出る最後のモラトリウムというか、準備期間であると思います。社会に出ると、自分らしさを維持しながら進むというすごく難しいことも初期は多いので、今親にお世話になりながらとかいろんな形かもしれないけど、自分らしさを追求できる大事な時間でもあると思います。あまり短期的な成功失敗にとらわれずに自分らしいチャレンジをすると、ふと何かその経験がどこかのタイミングで巡ってきてくれて役に立つような、大事な財産になると思うので、自分らしく言い時間を過ごしてほしいと思います。